

クラス番号	630	担当教員名	木戸 利秋
テーマ	地域文化と福祉の接点から地域づくりを考える ー地域福祉の可能性と課題ー		
著書・論文 研究課題等	木戸利秋編『新潟の在宅ケアー新しい世紀をみつめてー』とき書房、2001 年 木戸利秋編『その笑顔がみたいからー福祉改革期と穂波の里の 10 年ー』萌文社、2004 年 共著『福祉社会開発学ー理論・政策・実践ー』ミネルヴァ書房、2008 年 研究課題：地域ケアと住民自治、イギリスの貧困・社会的排除研究		

ゼミナール概要

キーワード： 地域文化、集落自治・住民自治、条件不利地域、地域福祉

目的

地域福祉コースの特別講義のなかで、新潟県佐渡市の例をひきながら過疎や離島という条件不利地域のなかで、なぜ住民はそこに住み続けたいと思うのかを問うた時に、豊かな自然環境とともに金山の歴史に端を発した狸文化や能楽など地域の伝統文化や芸能等に囲まれた暮らしが、地域への愛着の形成、住民間のつながりの育成に肯定的に作用している可能性があることを指摘しました。また、こうした地域文化が、「向こう三軒、両隣」の集落自治の維持に一役買っている側面にも言及しました。

これらのことは、国が「自助、共助、公助」というスローガンのもと、福祉の公的責任を縮小しながら、安全安心の役割を地域に委ねようとする動きが強まる中で、地域が本来有している価値に立脚しながら、住民自治をボトムアップでつくりあげていく可能性を示すものです。このゼミでは、この観点をフィールド活動や学習と討論を通して批判的に検討することを目的とします。

内容と方法

まずゼミでは、この地域文化と暮らし仕組みのなかに、幸せに生きるという価値や他者への思いやりなど、福祉の要素がたくさんつまっていることを、フィールド活動を通して確かめます。地域の文化活動を担っている住民等へのヒアリング調査が考えられます。

しかし、こうした地域の強さだけではなく、弱さもおさえる必要があります。そこで、こうした地域文化や集落の自助、共助の機能を弱体化させるような社会的な力が、どのように働いているのかを考えることが、次の課題です。これはフィールド活動での体験がヒントにはなりますが、文献や資料を使った学習も求められるところです。専門書だけでなく、新美南吉の「おちいさんのランプ」「最後の胡弓弾き」から文明開化と暮らしの変化を、島崎藤村の「夜明け前」から幕末・明治維新と地域変化を考えます。

最後には、地域の強さと弱さの両面から考えたことをもとに、地域福祉の観点から行政や社協などの民間の役割、ソーシャルワーカーの役割など、地域福祉の可能性と課題についてのレポートをまとめます。

授業計画

3 年前期は地域福祉をめぐる諸テーマの学習、条件不利地域の状況を理解するための学習、フィールド活動や調査に関する学習を行いながら、活動先の地域の選定を行います。その際、地域文化と福祉の関係性を観察するうえでは知多半島内の地域に学びたいと考え、前期中に機会をつくる予定です。夏休み and/or 春休みには、合宿形式でフィールドに入ります。3 年次後期は、フィールド活動・調査のまとめとレポート作成が中心になります。

4 年次には、3 年次の取り組みをふまえ、新しい課題に挑戦します。

担当教員からのメッセージ



5 年ぶりに専門演習 I を担当することになりました。

地域が直面している課題に向き合い、自分らしい人生を全うするにはどういう仕組みや支えが必要なのか、住民の方たちとともに悩めるようになれば、ある程度ゼミの目標は達成したと言えます。

いろんな意味で、楽しいゼミにしたいですね。

写真は、佐渡の相川で、買物弱者の調査結果について話しているところです。